

アルミ輸入は大幅なプラスに

アルミ圧延品、二次合金地金ともに生産増

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏
五月前半
は米公開市
場委員
会
(FOMC)声
明が緩和継続
となったこと
となったこと
四月の米
需

用統計が事前予想(九八万人増加)を大幅に下回ったこと(実績二七万人)などのプラス材料もあったが、四月の米消費者物価指数(CPI)が市場予想を大きく超えインフレ懸念から長期金利先高感でドル高となったことを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、五月十五日時点で二四三三ドル(セツル)と月初価格から七ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、米国で新型コロナウイルスワクチンの接種が進み、経済活動の正常化が進むとの見方などのプラス材料もあったが、暗号資産(仮想通貨)のビットコインが急落し投資家のリスク回避姿勢が強まり、市場心理を測る指標となる米株の変動性指数(VIX)は一時二六弱まで上昇したことなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、五月末日現在、後半スタート価格から三二ドルDOWNの二四〇四・五ドル。

●月間の経済指標
●月間のドル/円レート(TTS)
一〇九・九五―一〇・九七(円)

●自動車販売台数
●自動車生産台数
生産動向統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六七万九七六一台。輸出は八〇・五%増。

●自動車販売台数
●自動車生産台数
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・九%増の一九万三、七五〇台。

●新設住宅着工件数
●新設住宅着工戸数
四月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・一%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・三%の増加となった。

●新設住宅着工戸数
●新設住宅着工床面積
新設住宅着工床面積は六、〇六四千坪で前年同月比五・三%増と、三カ月ぶりの増加。季節調整済年率換算値では八八三千戸で前月比〇・三%増と、四カ月連続の増加。

貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出は、アルミ新地金が前年比一七・四%増の二二一t、二次合金が四二・二%増の一、七七二t、スクラップが一三八・四%増の三万二、四三九t、アルミ缶が七・五%減の九二九一t。

輸入

輸入は新地金が前年比六八・八%増の二二万九二六t、二次合金が一五・九%増の九万七、八五二t、スクラップが四一九%増の五二七t、合金スクラップは四六六%増の三、八二二t。

●前月の国内指標
●前月の国内指標
日本アルミニウム協会発表の庄屋部の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比九・一%増の二六万六、九一八tと四カ月連続プラス。アルミニウム二次合金・同合金地金等実績によると、生産は前年比三四・三%増の七万、一〇七四tと六カ月連続プラス。出荷は三〇・三%増の七万、〇八七tと六カ月連続プラス。

国内概況まとめ

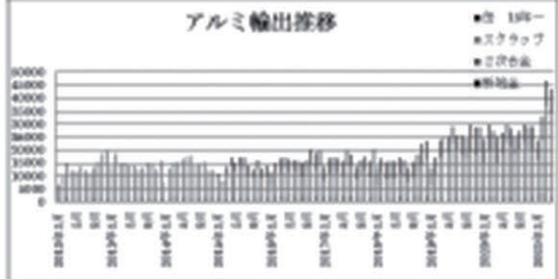
自動車生産

生産動向統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六七万九七六一台。輸出は八〇・五%増。

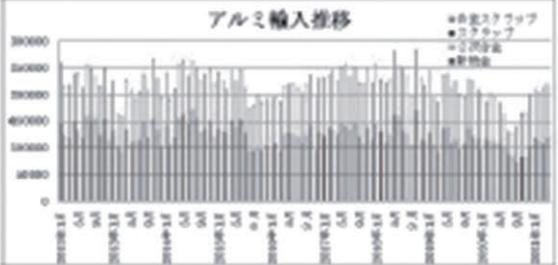
自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・九%増の一九万三、七五〇台。このうち、乗用車三四・二%増、貨物一五・五%増、バス三・一%減。(六回へ続く)

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移



LME銅・今月も米経済、景気対策と中国の景気動向がカギ

(四国より続く)

【住宅着工戸数】

四月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び貸家が増加したため、全体で前年同月比七・一％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・三％の増加となった。

【伸銅品生産】

四月伸銅品生産量は前月比三・二％減少の六万七、六六トトン。前年同月比では一三・二％増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

品種別で見ると、銅糸は前年同月比一・二％増と七カ月連続プラス。

同月では前回好調だった二〇一八年の実績を超えている。車載向けを含めて半導体ICの需要が好調である。ディスクリット(個別半導体)も回復してきて、自動車の新車生産台数増加に近いところで推移している。

一部の情報において、銅糸の需要に対し、国内の銅糸生産が追い付かず、逼迫しているとの観測があるが、銅糸の顧客からもそのような話は出ていないと否定した。

黄銅棒は前年同月比一九・二％増加。三カ月連続のプラス。

住宅設備関連の国内需要が緩やかに回復し、リフォーム向けの需要が伸びている。リモートワークや外出の手控えが長期化するに伴い、在宅時間が長くなり、自宅の修繕が増えていることが背景にあり、タッチレス水洗需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三六％増の五万四、三〇〇t。

このうち国内三・一％増、輸出が三二・六％増。

【輸出】

電線輸出が七六％減の三万九、八五三t。

銅スクラップが二四四・六％増の四万五、八〇t。

【輸入】

電線銅が二三四％増の三、六七一t、スクラップが一四・八％増の一、〇九四t。

【自動車】

四月の自動車生産が六四・八％増。五月国内販売台数が前年比三〇・九％増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識、販売も大幅増。

今後生産、販売ともに増加していくが注視。

・四月伸銅品生産量は前月比三・二％減少の六万七、六六トトン。前年同月比では一三・二％増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となった。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三六％増の五万四、三〇〇t。

このうち、国内三・一％増、輸出が三二・六％増。内外需が揃って増加するのは久しぶりのこと。内外ともにプラスが続くが注視。

・銅輸出は、スクラップが外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は電線銅が内需旺盛から急増、スクラップは内需回復から増加。

【スクラップ状況予想】

流通在庫は、銅建値が一八万円の高値安定から一転一三万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく、生産は急増傾向にある。しかし原料高値安定のため、メーカーはスポット買いに徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月も①米経済、景気対策との中国の景気動向に左右される。

①に関して

バイデン米政権は二十八日、六兆ドル(約六五九兆円)規模の予算案を発表したことから米景気は回復傾向が続くのではないかと。

経済や国民生活における連邦政府の役割を拡大させる方針で、インフラや公衆衛生、教育への支出を大幅に増やす一方、企業や富裕層への増税を求める内容となっている。

②に関して

中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策や、五月の中国の公式購買担当者景況指数が製造業で五一・〇と前月の五一・一からわずかに低下、原材料高騰が影響しているものと思われることから、これ以上の高騰には心理的ブレーキがかかるのではないかと。

これらを踏まえた六月の銅価格は二万〇〇〇〇

〜二万二、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は二〇七円〜二一〇円(TTM)

台を予測。

銅建値に関しては二一五万〜二二五万円程度と予測している。